

特集 「これからの理学療法教育」

理学療法士養成校における学生教育と課題 —COVID-19を経験して—

森尾 裕志<sup>1) #</sup> 中尾 陽光<sup>1)</sup> 坂上 昇<sup>1)</sup>

I. はじめに

理学療法士の養成課程における学生教育は、指定規則改正や社会的背景により少しずつ変化してきている。3年次や4年次に実施される臨床実習では、2020年度以降の入学生に対し実習指導をする場合、臨床現場の理学療法士は「臨床実習指導者講習会」を受講済みであることが要件に加わった<sup>1)</sup>。また、養成校における学生指導も少子高齢化の時代背景を受けて、修正が必要となってきた。今回は理学療法士養成課程における学生教育の課題や新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)による教育方法の変化について報告する。

II. 理学療法士養成課程(大学)に求められているもの

- 1. 少子高齢化と理学療法士養成校増加による学生の学力と質の変化  
ここ数年、理学療法士養成校の学生の学力低下を

指摘する声が多い<sup>2)</sup>。実際、学びの集大成ともいえる理学療法士国家試験の合格率は、1984年～2010年の間は平均93.9%で安定して推移していたが、2011年～2021年の間は、乱高下し、平均82.8%と低下傾向にある<sup>3)</sup>(図1)。その背景として、養成校の増加と少子化が重なって各校の入試での選別機能が低下し、入学者の学力水準を担保することが困難になっていることが指摘されている<sup>2)</sup>。こうした学生の質の変化とともに、一方では社会状況の変化や科学技術の進歩に伴う医療の高度・専門化により、理学療法士にはより専門的な知識や技術が求められている。

- 2. 学生が円滑に学べるためのスタディ・スキルを身につけさせる  
各養成校のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)にもよるが、本学では1年次のうちにスタディ・スキル(ノートのとり方、検索エンジンの活用方法、タイピング技術の向上、レポートの書き

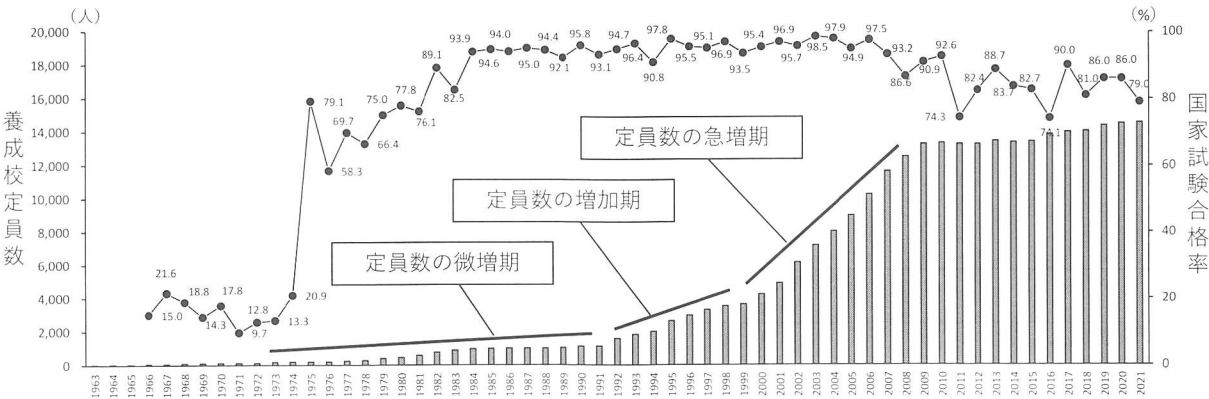


図1 理学療法士養成校の推移(1963～2021年)

1) 湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻  
(〒244-0806 神奈川県横浜市磯区上田濃 16-48)  
# E-mail: yuji.morio@sums.ac.jp

方等)を学修させている。中島ら<sup>4)</sup>は、1年次での学修に対する姿勢が、その後の成績に影響する重要な因子であったことを報告している。これらのことから、学修意欲や学修態度は低学年次に形成されると考えられ<sup>5)</sup>、1年次教育としてリメディアル教育(学修支援)の必要性は高いといえる。

3. 教育内容の1999年(第3回指定規則改正)と2020年(第4回同改正)との比較

今回の2020年度(第4回指定規則)の改正では、より臨床感に富んだ内容が組み込まれ、多面的なカリキュラムの構築が意識づけられている(表1)。これまでの指定規則では必修化されていなかったリスク管理や、画像評価については、学生に「臨床実習で学んでください」という雰囲気もあった。理学療法士養成課程教育が始まった当時は、総学習時間数に対する臨床実習時間数は、50.4%であったが、1999年には19.4%と減った。そのため、養成校の教育は、理学療法士の即戦力としての教育から少し距離をおくこととなっていた<sup>6)</sup>。

しかし、2020年度以降の理学療法士養成課程では、「地域リハビリテーション実習」という形で実習時間が増え、リスク管理や画像評価などの発展的な知識・技術についても必修化された。これは臨床を意識した卒前教育の強化であり、養成校の教員においても、より臨床感に富んだ教育が求められているといえる。また、第2回指定規則改正(1999年)で追加された「地域理学療法学」は、今回の改正(2020年)で、より重点化され「地域リハビリテーション実習」が追加された。さらに、「自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の理解」についても、必修化されており、今後はより地域に根差した理学療法の重要性を臨床現場で学ぶことが重要なポイントとなっている。

4. 近年(2021年度)における教育現場の特徴

1)アクティブ・ラーニングの活用

アクティブ・ラーニングは、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法である<sup>7)</sup>。本学では、運動学演習や呼吸循環系理学療法学演習などの演習系の授業において、自ら課題を提案し、調査し、プレゼンテーションや、ディスカッションを行う機会を設けている(図2)。ディベートやグループワークなどの実践を交えて理論を学ぶ狙いがあり、ひいては互助の精神の涵養や、チーム医療の実践力に加えて地域医療と地域社会に貢献できる理学療法能力の涵養を図っている。

2)国家試験合格率向上のための学修プランの導入

理学療法士国家試験の合格率は90%前後(新卒者)で推移している。直近5年間(2017～2021年)で最も低値を示した年が2021年(第56回)であった(全国平均 86.4%)。一方、神奈川県内理学療法士養成校(大学)に限定すると2021年(第56回)理学療法士国家試験合格率は、神奈川県立保健福祉大学 100.0%、北里大学 97.7%、国際医療福祉大学小田原保健医療学部 97.6%、昭和大学 96.6%、湘南医療大学 94.4%<sup>8)</sup>と、全国平均と比較し、いずれも高値を示していた。国家試験合格率の100%を目指すことは、我々理学療法士養成校の教員としても当然の責務と感じているが、これがなかなかうまくいかない。「10年分の過去問をやれば何とかなる」は、一昔前の話であり、今となってはその手法は禁忌に近い。入学時からのシステムティックな国家試験対策が必要なのである。冒頭でも述べたが、学生の質の変化とともに、理学療法士にはより専門的な知識や技術が求められている。これらの変化に対応すべく、1年次から段階に合わせた国家試験対策が講じられていることが、教育現場でのリアルワールドになっている。

表1 教育内容の比較(1999年と2020年)

	第3回指定規則改正 1999年	第4回指定規則改正 2020年
国家試験受験者数(人)	2,744	12,283
国家試験合格者数(人)	2,566	10,608
卒業必要総単位数	93単位以上	101単位以上
追加／必修化となった科目	「地域理学療法学」	「理学療法管理学」「画像の評価」「栄養、薬理、画像、救急救命及び予防の基礎」「自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の理解」
変更となった点	・臨床実習時間が総単位数における割合が約30%から20%以下となった。 ・カリキュラムの大綱化	「地域理学療法学」4単位⇒3単位 「地域リハビリテーション実習」1単位追加

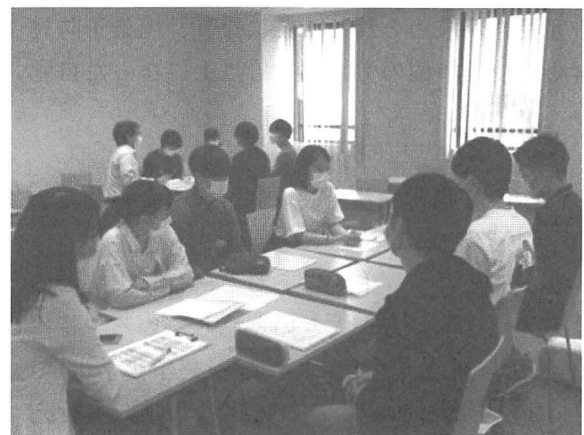
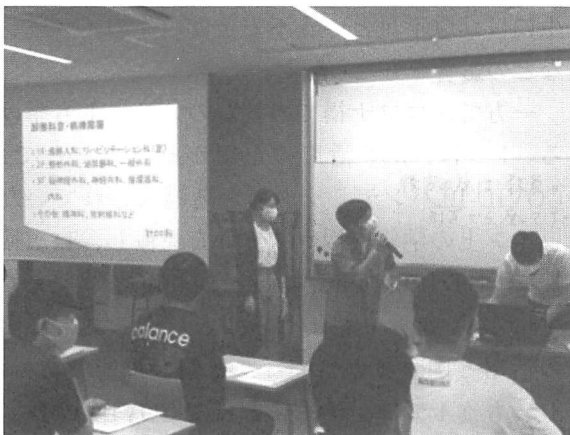


図2 アクティブ・ラーニングに取り組む学生たちの様子(2020年10月)

### 3) 通信情報技術(ICT)を活用した指導

文部科学省は以前から、ICTを活用した教育を推奨している<sup>9)</sup>。ICTを活用した教育は、授業の準備・指導・評価や、校務の効率化を目的としており、理学療法士養成課程においてもICTは欠かせない存在である。本学学生には入学時にノートパソコンを購入、もしくは用意をしてもらい、リメディアル教育ではタイピング課題を設けている。また、各科目の中ではレポート作成や、プレゼン資料の作成、図表の作成、計測値の分析等でICTは欠かせない。さらにオンライン授業やグループワークにおいても、オンライン共有機能を用いたコンテンツの協働制作等にも活用している。しかし、この一年のICT活用の拡充は、不本意ながらCOVID-19拡大が契機となったといっても過言ではない。

## Ⅲ. COVID-19 が理学療法士養成課程にもたらした影響

### 1. COVID-19 の影響により迫られたオンライン授業

COVID-19 感染拡大を受け、理学療法士養成校においても事務、教員、学生は様々な変化が求められ

た。文部科学省は2020年2月、医療現場の受け入れがコロナ禍で難しくなっていることを受け、大学の授業などを代わりに単位として認める特例措置を発表した<sup>10)</sup>。さらに同省は実習の実施を原則としつつ、「当該学校養成所等において実習に替わり得る学修として各学校養成所等で配当した単位の履修」でも単位取得を認めることを各医療関係職種等養成校に通知した(2020年6月)<sup>11)</sup>。本学では理学療法士を目指す学生が医療現場で19週間、学ぶカリキュラムが組まれている。しかし、実習予定先の各医療機関からは、医療提供体制の維持、および感染症対策のため実習生の受け入れが困難との声が出ていた。そのため、本学の総合臨床実習では模擬症例などを提示し、オンラインシステムを用いての代替授業を実施することになった。

### 2. 授業を継続するための冗長性が求められた

新年度を迎えた2020年4月、神奈川を含む7都道府県に対して緊急事態宣言が発出され、授業運営は暗礁に乗り上げた。手探りで授業方策を模索しつつ、翻弄されながらも徐々にオンライン授業(同期型:リ

アルタイム型・非同期型:オンデマンド型)を開講した(図3)。5月下旬からはICT活用の見直しを図り、COVID-19対策を講じながら徐々に授業の展開を図った。具体的には、ブレンド型授業(反転授業:目的に合わせて対面とオンラインを組み合わせる授業)や、分散型授業(受講者を対面授業とオンライン授業の2つに分けて実施する授業)、分散登校型対面授業(受講者を2つに分けて異なる時限で分散登校させて実施する授業)<sup>12)</sup>であり、不安定な状態は2021年度前期まで続いた。この間、我々養成校教員は対面でもオンライン授業でも、どちらでも対応できる冗長性が求められることになり、感染予防対策を含め、授業準備の労力は2倍以上になった自覚がある。

### 3. COVID-19が理学療法士養成課程にもたらしたデメリットとメリット

デメリットとメリットで考えると、コロナ禍での教育はデメリットの方が大きいと感じている。特に新生(2020年度1年生)と4年生(最終学年学生)でCOVID-19の影響は大きい。新生は入学式も行え

ず、クラスメイトとの友人関係を築くことも難しい状況であった。また、初年度教育で重要とされるリメディアル教育も不十分なままでオンライン授業にならざるを得ない状況であった。2020年度入学生は、全国的にうつ傾向にある学生が多いとの報告(朝日新聞:2021年8月11日朝刊)もあり、不安と人間関係の希薄さが学生の精神面に与える影響の大きさを知ることになった。また最終学年である4年生は、臨床実習に行くことができなかったため、COVID-19の影響を受けた。理学療法士養成課程での約20%を占める臨床実習が学内実習に置き換わることは、学生には経験不足という不安と就職先のイメージ不足などの影響をもたらした。

一方で、コロナ禍での教育のメリットも挙げられる。1つは、ICT活用の土壌が整ったことである。COVID-19パンデミック前から導入されていたオンライン上の学修支援システムを見直し、自粛期間を機にCBT(Computer based testing)を構築した。学生にCBTを取り組ませることによって、自粛期間の活用と国家試験に向けた準備が可能であった(図3)。もう1つは、学生にとってCOVID-19は、改め

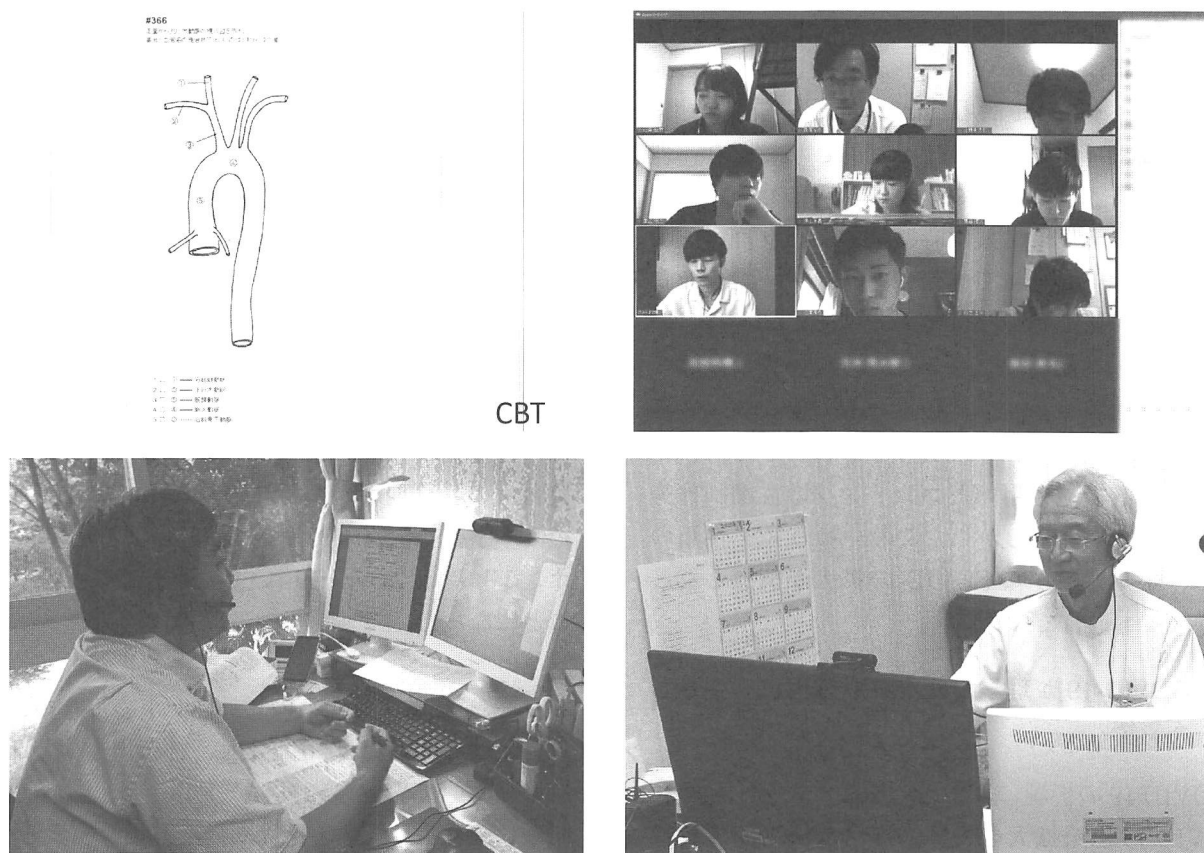


図3 リアルタイム型オンライン授業の様子(2020年5月)

て医療従事者としての健康管理の重要性や患者との距離感について認識する機会にもなったと考えている(図4)。学生には、COVID-19によるパンデミックへの対応経験を基に、今後の理学療法士としての活動に活かしてもらいたいと考えている。

#### IV. おわりに

本稿では、COVID-19によるパンデミックへの対応経験を経て感じた理学療法士養成校における学生教育と課題について論述した。我が国において、Society 5.0が推進されており、仮想現実感を利用した身体空間の融合が求められている<sup>7)</sup>。このSociety 5.0には遠隔医療におけるリモートバイタルモニタリングも含まれておりICTを活用する技術は、今後の臨床でも用いられることになるであろう。COVID-19で拡大されたICTは決して無駄ではなく、理学療法士養成課程においても積極的に導入されるべきテクノロジーであると考えている。

#### 文 献

- 1) 文部科学省・厚生労働省：令第四号(指定規則改正)(2018). [https://www.japanpt.or.jp/assets/pdf/info/20181009\\_02/03\\_shiteikisokusyorei\\_181005.pdf](https://www.japanpt.or.jp/assets/pdf/info/20181009_02/03_shiteikisokusyorei_181005.pdf)( 閲 覧 日 2021 年 11 月 1 日)
- 2) 高橋精一郎. 専門教育の水準. 理学療法学. 2014; 41: 09-711.
- 3) 公益社団法人日本理学療法士協会：統計情報. <https://www.japanpt.or.jp/activity/data/>( 閲 覧 日 2021 年 11 月 1 日)
- 4) 中島 昭, 長田明子, 他. 入学後の成績に影響を与える要因は何か：藤田保健衛生大学医学部における解析. 医学教育. 2008; 39: 397-406.
- 5) 越野八重美. 理学療法士国家試験対策時の模擬試験結果と自己学習量との関係. 保健医療学雑誌. 2019; 10: 99-106.
- 6) 吉元洋一. 指定規則の改正について. 理学療法学. 2016; 43: 100-104.
- 7) 文部科学省：2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申). 中央教育審議会(2018). [https://www.mext.go.jp/content/1413715\\_008.pdf#page=0001](https://www.mext.go.jp/content/1413715_008.pdf#page=0001)( 閲 覧 日 2021 年 11 月 1 日)
- 8) 旺文社：教育情報センター 第56回 理学療法士・作業療法士 国家試験結果(2021). [http://eic.obunsha.co.jp/eic/pdf/kokushi/2021/0420\\_1.pdf](http://eic.obunsha.co.jp/eic/pdf/kokushi/2021/0420_1.pdf)( 閲 覧 日 2021 年 11 月 1 日)



図4 コロナ禍での実技指導の一例(2020年6月)

- 9) 文部科学省：教育の情報化に関する手引き (2010). [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)(閲覧日 2021年11月1日)
- 10) 文部科学省, 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(2020). <https://www.toyoryoho.or.jp/files/news/f100000576-00.pdf>(閲覧日 2021年11月1日)
- 11) 文部科学省, 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(2020). [https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt\\_kouhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf)(閲覧日 2021年11月1日)
- 12) 豊田 輝, 田中和哉, 他. 理学療法士養成課程における新型コロナウイルス感染症蔓延に対する事業継続マネジメントの在り方の検討. 理学療法科学. 2021; 36: 657-664.